

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふたば福祉会 放課後等デイサービス はぐみ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている。	こどもの状態やその日の集団の状況を確認しながら、個別の部屋や場所をエスケイプやクールダウンに使用できるように柔軟に運用している。落ち着いて過ごせるように個室対応している。	見守りのスタッフの数が十分確保できたり、運営の状況が許せばもう少し多くの個別の部屋や場所を使用する事が認められるような環境に改善していきたい。
2	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。	従業者向け評価表により、従業者に対して事業所の自己評価を実施してもらい、その結果を全職員で共有しその内容を業務改善につなげている。その他職員会議、個人アンケート等に取り組み職員の意見をすいあげ、業務改善につなげている。	今後についても継続して従業者向けの評価表により、従業者に対して事業所の自己評価を実施してもらい、忌憚のない意見や改善すべき内容を提案してもらう事を継続したい。また、職員会議のテーマやアンケートのなかみを業務改善に絞って取り組みたい。
3	事業所の行事に地域住民を招待する事、地域に開かれた事業運営を行っている。	事業所の開始以来、地域住民を招いて音楽会を開催したり、老人クラブの方々の敬老の日のイベント、民生委員・児童委員のさんとの交流会(ハロウィン、クリスマス会)、地域住民を招いた事業所のお披露目会等を行い、地域に開かれた事業所運営に努めてきた。	令和7年3月15日には地域のNPO法人と合同で地域住民(お年寄り)や一般のこどもを招いて「こども食堂」を初めて開催する予定にしている。今後も地域の各種団体の力を借りながら地域に開かれた事業所運営に努めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の設備等が障害の特性に応じて、バリアフリー化や環境上の配慮がなされていない。	四十数年使用され閉園した保育所跡の建物を再利用で使用しているので、こどもや職員が使用するトイレがバリアフリー化できていなかったり、トイレの使用環境が男女別に分かれていない。	現在の生活空間を予算や運営の状況も確認しながら、計画的にバリアフリー化や男女別のトイレになるように改修が必要である。
2	放課後児童クラブや児童間との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がもてていない	地域の他のこどもと活動する機会をもつために、各種団体と連携できていない。一歩その目的達成のために地域に積極的に踏み出せていない。	まずは相手の地域の他のこどもと同じイベントに参加することや放課後児童クラブや児童間を見学に行くことから検討し、一歩踏み出したい。
3	H PやSNSを活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に発信できていない。	事業所の開所以来、紙媒体による通信の発行だけで満足してしまい事業所を利用される保護者の世代の移り変わりや、情報伝達手段の多様化についていけていない。	今後はH PやSNSを活用した活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に発信できるように情報の多様化の推進の取り組みや工夫に着手しなければならない。